

香川の医療最前線

54



◆みかみ・ひろし 1980年徳島大医学部卒。徳島大整形外科臨床教授、吉野川医療センター副院長などを経て、21年4月から現職。日本整形外科認定医、日本リウマチ学会専門医。徳島県出身、67歳。

が炎症を悪化させている。

加齢と共に膝の軟骨が摩耗し、慢性的な痛みを伴う「変形性膝関節症」。自覚症状がある国内の患者数は約1000万人と推計される。最新の治療法として注目を集めるのが「APS療法」。患者自身の血液を利用し、膝の痛みを抑える再生療法の一つだ。APS療法を専門とし、4月に開院した高松ひざ関節症専門クリニックの三上浩院長に治療法やそのメリットなどを尋ねた。

変形性膝関節症の治療

「従来の治療との違い

は効果が多分だが、手術を受けるには抵抗がある」という人の選択肢として注目されており、特に進行期から末期の人に有効だ。自身の血液を使用するため、アレルギー的な副反応もなく、安全性が高いのも特徴だ。

— 具体的な治療法は。患者の血液を約55ミリ採にかけてAPSを抽出し、患部に注射する。治療は日帰りで終わる。原則として麻酔も必要ない。施術後数日間、治療部位に腫れや痛みなどが出ることもあるが、入院も不要で、体に負担の少ない治療法だ。

自己血成分で痛み抑制

手術せず副反応もなし

の上り下りの際に痛みが出る。

— APS療法とは。

は。

— 変形性膝関節症とは。日常生活で立ち上がった

が目立つ末期では、安静時にも痛みが出る。

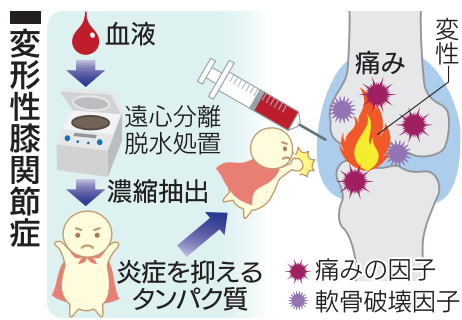
患者自身の血液を利用し

これまでは湿布や鎮痛剤、ヒアルロン酸注射など

— 高齢になるほどなりやすい。

— 高年齢になるほどなりやすい。

PS療法は、「保存療法で



— 治療による効果はどの程度続くのか。注射をしてから1週間、1カ月ほどで効果が現れ、痛みが軽減する効果は1年程度続く。ただ、軟骨が再生されるわけではないので、1回注射すれば効果が永続するといったものではない。また、保険が適用されない自由診療となるため、費用は1回約30万円かかる。

■ 高松ひざ関節症専門クリニック

21年4月に開業。脊椎や関節、外傷の一般整形外科診療はなく、膝のAPS療法のみを専門としている。完全予約制で、診療時間は火・金曜の午前9時～午後1時、同2時～5時。

所在地：高松市花ノ宮町1-9-22 □ゼ花ノ宮1階
電話：087(802)3367
<https://www.dr-navip.jp/kagawa/detail?no=5080>